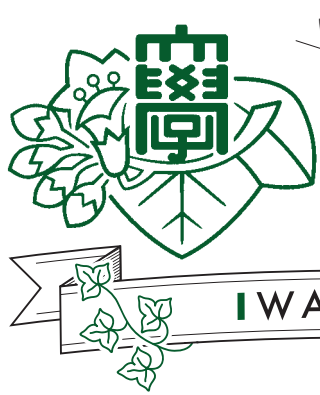




CAMPUS LIFE - Club Activities -

岩手大学クラブ活動紹介

01 ハンドボール部 / Handball Club



悲願の1部昇格を達成！
練習中も笑顔が絶えず活気あふれる
ハンドボール部取材しました。

Q1. ハンドボール部はどのような部活ですか？

ハンドボール部は部員総勢30名で活動しています。1年生から4年生までとても仲が良く、休日の練習後には先輩・後輩関係なく一緒にご飯を食べに行く光景もよく見られます。ハンドボールはまだマイナーな競技なので、「見たことも聞いたこともない」という人も多いかもしれませんが、岩手大学ハンドボール部は未経験者も大歓迎です。2025年度の春季リーグでは、2部優勝を果たし、悲願の1部昇格を勝ち取ることができました。

Q2. 普段はどのような活動をしていますか？

授業のある期間は基本的に、月・水・金曜日の6:30~8:00に練習を行っています。日曜日や長期休業期間は13:00~17:00に練習を行っています。主に5月と9月頃に大きな大会があり、その時期が近づくと、岩手大学や他大学で練習試合をすることが多くなります。



Q3. 佐々木さんが入部したきっかけは何ですか？

高校の先輩が所属していて、春休み中に部活に参加させてもらったことがきっかけです。当時のハンドボール部は、今では想像出来ないほど人数が少なかったのですが、先輩方がとても優しく接してくださり、「人数が少なくてもこの部活で頑張っていきたい」と思い入部を決めました。

Q4. ハンドボール部の魅力を教えてください。

明るく元気な部員が多いため、練習中も笑顔が絶えずとても活気にあふれているところが魅力だと思います。先日行われた春季リーグでは、持ち前のチームワークと雰囲気の良いを生かして他大学を圧倒し、1部昇格を達成することが出来ました。9月に行われる秋季リーグは仙台で開催され、部員全員で泊りがけで参加できるのも楽しみの一つです。また、春季リーグは花巻で開催されるため、ハンドボール部イチのビッグイベントです。

Q5. 今後の目標は何ですか？

9月に行われる秋季リーグでは1部というハイレベルな舞台で強豪大学と渡り合うことを目標にしています。応援よろしくお願いします！

取材に協力してくれた方

教育学部 3年
佐々木 創さん（宮城県古川高等学校出身）

02 三曲部 / Japanese Instruments Club



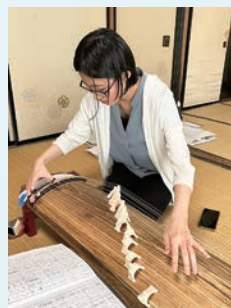
箏・三味線・尺八の音色が響く
自由な雰囲気の中で活動する
三曲部取材しました。

Q1. 三曲部はどのようなサークルですか？

三曲部は、「箏」、「三味線」、「尺八」の三つの和楽器を演奏しているサークルです。週に一回から参加可能で、自由にゆったりと活動しています。部員は初心者から経験者まで様々です。

Q2. 普段はどのような活動をしていますか？

曜日や集合時間に特に指定はなく、週に1、2回を目安とした個人練習が基本です。練習場所は洗心亭という場所で、好きなタイミングで練習をすることが出来ます。また、月に2、3回程度、外部講師から箏、三味線、尺八のお稽古を自由に受けることができ、本格的に取り組む部員もいれば、気軽に和楽器を楽しんでいる部員もいます。



Q3. 岸さんが参加したきっかけは何ですか？

私は楽器演奏の経験がありませんでしたが、以前から和楽器への憧れがあり、三曲部の見学に行ったことがきっかけです。サークルオリエンテーションで箏の演奏を体験した際、その美しい音色に心を奪われ、入部を決意しました。また、所属されていた同じ学科の先輩が、話しやすく優しい雰囲気だったことも大きな決め手となりました。

Q4. 岸さんが演奏している楽器について教えてください。

また、その楽器の魅力を教えてください。

私は箏という十三本の弦をもつ楽器を演奏しています。中学校や高校の音楽の授業で触れたことがある方も多いと思います。箏は、柱という可動式の駒で調律し、箏爪と呼ばれるピックのようなものを指にはめて弦を弾いて演奏する楽器です。音色がとても繊細で優雅で、普段聴いている現代音楽も、箏で演奏すると全く違った印象を受けるのが面白く、とても魅力的だと感じます。



Q5. 活動のPRをお願いします！

三曲部では、自由に、気ままに、ゆったりと和楽器を嗜むことができます。箏、三味線、尺八を同時に経験できるのは三曲部ならではの特色です。和楽器を演奏してみたい方は、いつでも見学・入部大歓迎です！一緒に和楽器を演奏してみませんか？



取材に協力してくれた方

農学部 3年
岸 夏海さん（北海道函館中部高等学校出身）

サークル紹介ページ：

<https://www.iwate-u.ac.jp/campus/activity/club.html>



学内コワーキングスペース

イーハトーヴ協創ラボ〈TOVLAB(トヴラボ)〉とは？

岩手大学構内には、学生・教職員と地域との交流・協働を恒常的に促す場として、多業種交流&コワーキングスペース「イーハトーヴ協創ラボ〈通称TOVLAB(トヴラボ)〉」を設置しています。2024年10月のオープン以来、多くの学生やパートナー企業の方に利用いただいております。2025年5月の月間来場者は2,000人を超えるなど、大きな賑わいを見せています。今回は、そのTOVLABについてご紹介します。



TOVLAB っていう意味？

「TOV」は、「イーハトーヴ」の英語表記「ihatov」に着目し、「私(I)は(ha)飛ぶ(Tov)」という意味が込められています。

「LAB(実験室)」としての機能だけでなく、地域と学生・教職員をつなぎ、交流や協創活動を通じて多様な仲間が出会い、新たなアイデアや取組を生み出すコワーキングスペースとして、「TOV」と「LAB」を組み合わせ、**TOVLAB**と名づけました。

TOVLABの
HPはこちら



地域協創教育センターの
HPはこちら



いま TOVLAB が熱い！

学生が集まる！

TOVLABの人気急上昇中

新年度に入り、TOVLABには以前より多くの学生が足を運ぶようになってきました。その背景には、イベントの開催が増えたことや、企業や地域の方々と直接話せる機会が広がっていることがあります。キャリアや地域のことについて、気軽に話せる場があることで、学生の関心や参加意欲が高まっていると思われます。さらに、TOVLABの空間は開放的で使いやすく、個人作業にもグループ活動にもぴったり。電源が自由に使える、長時間の滞在にも快適です。こうした環境が整っていることで、学生にとって「ちょっと立ち寄ってみようかな」と思える場所になっています。



TOVLAB ってどんなところ？

TOVLABは、「クリエイティブな活動を行う飛躍の場」として、オープンな環境とセキュアな環境の両立を兼ね備えた施設で、岩手大学の学生・教職員は無料で利用することができます。

POINT 01

出会いと交流が生まれるオープンスペース

学生、教職員はもとより、企業や自治体等、多様な人々が気軽に立ち寄ったり、施設内で行われる様々なイベント等を通じて利用者同士が交流することにより、新たなアイデアを創造したり、プロジェクトを生み出すオープンな場を提供しています。

POINT 02

専属のコミュニティマネージャーが交流をサポート

TOVLABには専属のコミュニティマネージャー2名が常駐し、利用者同士の積極的な交流をサポートしています。また、ニーズを踏まえたイベント等を企画することにより、マッチングやネットワークの形成を促進しています。

POINT 03

岩手大学のセントラルゾーンに立地

TOVLABが設置されている中央学生食堂2階は岩手大学のセントラルゾーンにあたり、学生センターをはじめ、人文社会科学部や教育学部の各棟が立ち並ぶエリアです。食堂や書店、売店なども隣接しており、利便性も抜群です。

イベントラッシュで盛り上がる TOVLAB

TOVLABでは、様々なイベントが開催されていますが、今回は2025年4月に開催された新入生交流会について紹介します。新入生同士のつながりを深める場として、本イベントを開催しました。新しい環境に不安を感じる学生も多い中、TOVLABの開放的な空間と温かな雰囲気が、自然な会話や交流を後押し。先輩学生や地域の方々と対話を通じて、大学生活の第一歩を安心して踏み出せるような時間となりました。また、交流を図るツールとして「本音カード」を使用し、カードに書かれたトークテーマに沿って「大学でやってみたいこと」や「最近の気になること」などを自由に話していきました。初対面でもこのカードのおかげで話題に困ることなく短い時間でもしっかりと交流が深まる会となりました。



この他にも、一人暮らしの食生活を応援する料理イベントや、「ふらっと〇〇会」など、学年を問わず誰でも参加できる「ゆる交流イベント」などが定期的に開催されています。

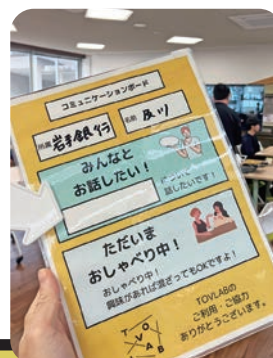
社会人とのリアルな交流

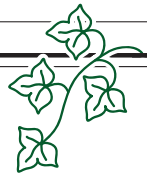
TOVLABには、地域企業を中心に、岩手大学の活動を支援する約40社のパートナー企業の社会人も時折利用しています。採用や就職活動にとらわれない、社会人と学生との自由な対話・交流の機会も多数提供されています。

例えば、毎週金曜日には岩手銀行グループが、「岩手で働く選択肢」や「地元ならではの仕事や働き方」などについて学生と社員が気軽に対話できる場を設けています。地元での働き方、お金に関する知識、起業や地域ビジネスのリアルなど、ここでしか聞けない話も盛りだくさんです。ふらっと立ち寄って、話を聞いてみることもできるので、「話しかけても大丈夫そ

う」、「なんとなく会いに行ける」そんな空気感が学生にも届いており、カジュアルな対話の場として定着してきました。

この他にも、ボードゲームを通じて今後の大学生活や将来を考えるキャリアイベントや、心理戦ゲーム「ワードウルフ」を通して学生と社会人が気軽に交流するイベント、社会人の本音や働くリアルなどをテーマに自由に語り合う「本音カタリバ」などの対話イベントが定期的に開催されています。





研究紹介

Research
Introduction

未来を創る知の探究者たち



生活を見つめ、つなげる社会を追求する家政学

私が担当しているのは、「家庭科教育学」です。「家庭科」は、家政学に依拠しながら、単なる家事のスキルを教えるものではなく、持続可能な社会づくりや、人とのつながり、命や暮らしの尊さを



2024年カタルーニャ自治州の社会的連帯経済（信頼と協力による問題解決）をめざす組織を訪問

学ぶ教科です。小学校から高校まで、家庭科という教科を男女必須科目として設置しているのは世界でただ一つ日本だけです。その教育を担う立場を目指すことは、とても意義があると思いませんか？生活を研究対象とし、「衣・食・住・健康・子ども・家庭・福祉・消費」など複数の分野にまたがり、「個人の暮らし」と「社会全体の持続可能性」をつなぐ学問が家政学です。生活を軽視し、経済を優先する社会が本当の豊かさでしょうか？共に助け合うことを中心に、今よりも豊かな暮らしを育む視点を大切にしたいと願い、時間の許す限りその魅力を届けたいと思っています。今だからこそ、自分の足もとを見つめ、ほんとうの豊かさとは何かを考える必要を感じ研究しております。



教育学部 / 学校教育教員養成課程 教授

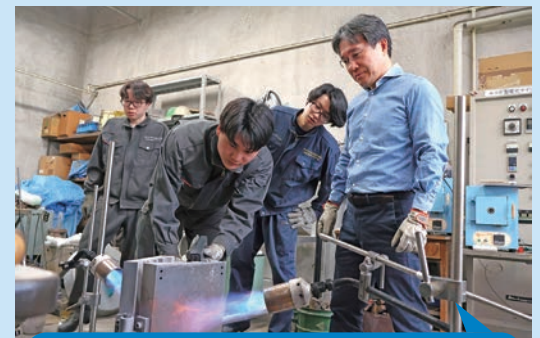
川村 めぐみ

Megumi Kawamura

キレイな溶湯で、鋳物はもっと強くなる

溶かした金属（溶湯）を砂や金属の型に流し込み、さまざまな形の金属製品（鋳物）を作る“鋳造”は、岩手県の伝統工芸として有名な南部鉄器に代表されるように、長い歴史の中で培われた技と知恵の結晶です。ところで、鋳物の強さは、使う溶湯のきれいさ（清浄度）によって大きく変化することをご存知ですか？溶湯にゴミや不純物が混ざっていると、鋳物の強さは大きく低下します。特にしなやかさ（伸び）は溶湯の清浄度に敏感で、清浄な溶湯で作った鋳物は、そうでないものの2倍以上も伸びることがあります。しかし、今の技術では高度に清浄化された溶湯で鋳物を大量生産することが難しく、金属本来の強さを引き出せていません。そこで、職人の経験に頼っていた溶湯づくりや鋳造のプロセスを科学的に分析し、新

たな溶湯の清浄化技術および鋳造技術の開発に取り組んでいます。伝統と最新技術をかけ合わせて、もっと強く、もっとしなやかな未来の鋳物を目指しています。



研究チーム一丸で臨むアルミ合金の鋳造実験。学生の真剣な眼差しが鋳造の未来を拓く。



理工学部 / 理工学科 / 材料科学コース 教授

水本 将之

Masayuki Mizumoto

大型の寄生虫の試験管内培養法確立への挑戦

感染症を引き起こす病原体の基礎・応用研究には試験管内培養技術の確立が不可欠です。病原体にはウイルス、細菌、真菌、寄生虫など多様な種類があります。さらに、寄生虫は単細胞生物の原虫と多細胞生物の蠕虫に分類されます。マラ



培養中の肝蛭を観察する様子

リアに代表される原虫は、試験管内培養系を用いて薬剤やワクチンの開発研究が進んでいます。一方、回虫、サナダ虫、住血吸虫など、目で見える大きさの蠕虫類は、サイズが大きだけでなく、動物体内での発育が複雑なので、試験管内培養法の確立は不可能と考えられてきました。そのため、研究開発が遅れていて、蠕虫感染症の大部分はWHOにより「顧みられない熱帯病」に分類されています。私達の研究室では、肝蛭という寄生虫を用いて、試験管内培養法の確立に取り組んでいます。この不可能を可能にする研究に成功すれば、開発途上国を中心に多くの人や動物が苦しんでいる寄生虫感染症を撲滅するための研究開発が推進可能になります。



獣医学部 / 共同獣医学科 准教授

関 まどか

Madoka Ichikawa-Seki

センパイ紹介 Alumni Interview

PROFILE

佐々木 祥子 さん

岩手県大槌町生まれ

2021年3月 総合科学研究科 農学専攻

植物生命科学コース 修了

盛岡農業改良普及センター 農業普及員

岩手県職員



Q① 印象に残っている学生時代の思い出を教えてください。

研究室で過ごした日々が印象に残っています。ゼミの準備や研究材料である植物のお世話など、つらいこともありましたが、厳しくも温かい先生方や、同じ研究室に配属された同期や先輩・後輩に励まされ、充実した毎日を送ることができました。特に、研究室のメンバー総出で取り組んだ圃場の管理作業は、今でも楽しかった思い出として度々思い返すだけでなく、その時の経験が現在の仕事にも生かされていると感じることがあります。

Q② 現在の仕事を選んだきっかけは何ですか？

実家が専業農家であり、農業が身近な存在であったため、将来は農家の方々の役に立つ仕事がしたいと考えていました。就職活動をする中で、岩手県の農学職は、農業の普及や研究など、幅広い分野から農業に関わることができる仕事であることを知り、就職を決めました。

Q③ 仕事のやりがいや今後の目標を教えてください。

現在勤務している農業改良普及センターでは、農家の方々が新しい生産技術を導入する際の支援や、経営のサポート等を行っています。この仕事は、農家の方々が抱える課題に対し、解決に向けて一緒に取り組んでいくことに魅力があると感じています。また、盛岡農業改良普及センターで働く職員は、それぞれの専門分野で担当が分かれています。様々な専門性を持った職員と協力して仕事を進められることも、この仕事のやりがいの一つです。まだまだ勉強が必要だと感じることも多いですが、農家の方々の役に立つ存在になることが今後の目標です。

Q④ 岩大生へメッセージをお願いします！

皆さんそれぞれに、挑戦してみたいことがあると思います。社会人になると、思うように時間を取ることが難しくなるので、今のうちにたくさんある自由な時間を使って、何でもやってみることをおすすめします。私は、概ね満足できる学生生活を過ごすことができましたが、それでも「もっと挑戦しておけばよかった……」と後悔していることもたくさんあります。やりたいことは全部やるつもりで、楽しい学生生活を送ってください！

T O P I C S トピックス

日本インカレにて陸上競技部が活躍

2025年6月5日(木)から8日(日)にかけて、岡山県のJFE晴れの国スタジアムにて、天皇賜盃第94回日本学生陸上競技対校選手権大会(日本インカレ)が行われ、男子200mに出場した本学陸上部の佐々木清翔さん(教育学部2年)が優勝、男子110mハードルに出場した似内陸斗さん(理工学部4年)が準優勝しました。本大会は、全国の標準記録を突破した学生が一堂に会し、個人および大学対校で学生日本一を争う、大学陸上界の最高峰の大会です。

佐々木さんは男子200m決勝を20秒90で走り抜き、環太平洋大学の選手と1000分の1秒まで同タイムでの「同着優勝」ととなりました。同種目における関東勢以外の大学からの優勝は32年ぶり、また東北勢としては史上初の快挙です。一方、似内さんは男子110mハードル決勝で13秒61を記録し、見事2年連続の準優勝に輝きました。



佐々木清翔さん(右)



似内陸斗さん(左)

岩手大学キッチンカーマルシェ開催！

学生への快適なキャンパスライフ提供やランチタイム時の食堂の混雑緩和による利便性向上のため、農学部附属植物園温室周辺で、キッチンカーの出店を行いました。2025年前期は8回開催され、4～8店舗が出店しました。学生・教職員のほか、地域の方々にもお越しいただき、多くの人で賑わいました。



Information

岩手大学公式ソーシャルメディア

岩手大学ではさまざまな情報をソーシャルメディアで発信しています。ぜひチェックしてください。



岩手大学公式Instagramを開設！

キャンパスライフやキャンパス風景など、岩手大学の情報・魅力を発信していく予定です。ぜひフォローをよろしくお願いいたします。



プッシュ通知で岩手大学の最新情報を逃さずキャッチ！

岩手大学のイベントや受験生向けのお知らせなどをスマホアプリのプッシュ通知で受け取れるサービスをはじめました。高校生、卒業生、地域の方など、アプリを登録して、岩手大学の活動をぜひチェックしてください。



登録はこちら



岩手大学教員によるミニ講義を公開中！

岩手大学教員のわくわくする学問を「夢ナビ」のミニ動画で紹介しています。自分の興味・関心につながる学問への可能性をぜひ広げてください。



岩手大学 80 周年記念事業のご案内

岩手大学は2029年に創立80周年を迎えます。2024年7月、創立80周年に向けた8つのプロジェクトがスタートしました。プロジェクトの詳細は記念サイトに掲載しています。創立80周年記念事業へのご寄附に関するご質問は岩手大学基金室まで、お気軽にお問い合わせください。



記念サイトはこちら



岩手大学広報誌 Vol.56

2025年8月 岩手大学総務広報課発行

〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8

E-mail: kkocho@iwate-u.ac.jp https://www.iwate-u.ac.jp/

本誌へのご意見・ご感想をお待ちしております。